

1. 2006年度 定期総会報告

2006年度の総会(6月11日、於 東北大学マルチメディア教育研究棟)では以下の事項が報告ならびに提案され、審議の後、承認された。

2. 2005年度会務報告

1) 総務報告

① 会員数(2006年5月21日現在)

正会員数 595名、購読会員数 43機関、賛助会員数 26社33口

1年以上の滞納者が20数人いるとのことで、これらの会員も含めて、複数回の会費納入の督促を行う。

② 総会

2005年6月12日 野依記念学术交流館(名古屋市)

③ 幹事会

第1回幹事会2005年12月25日(東京農工大学)

(報告事項)

1. 会務関連

1) 会員状況

2) 会費納入・予算関連

3) 日本土壌微生物学会 各種役員・委員会委嘱者及び任期(案)

4) 日本農学会関連(資料及び回覧資料あり)

① 次期会長の推薦に関して

② 評議員、運営委員の登録に関して

③ 1月24日第1回評議委員会(日本農学会賞受賞者の決定等)に関して

5) 各賞の推薦に関して

6) 土壌微生物教育委員会に関して

7) 日本学術会議の登録に関して

8) M&Eの電子ジャーナルの契約更新に関して

2. 会誌刊行関連

1) 会誌編集状況

2) 会誌のPDF化の進行状況に関して

3. その他

(審議事項)

1. 2006年度仙台大会に関して

2. 評議員構成に関する会則の変更にかんして

3. 会誌のPDF化の会員等への配付に関して

4. 日本農学会の次期会長選挙の候補者に関して

5. 日本農学会賞(H19年度)の推薦に関しての委員会の人選に関して

6. 日本学術会議の国際土壌科学関連対応

7. その他

第2回幹事会2006年5月21日(東京農工大学)

(報告事項)

1. 会務関連

- 1) 会員状況
- 2) 企画幹事の交替
- 3) M&Eの電子ジャーナルのフルオープンアクセス時期の1年延期に関して
- 4) 文部科学大臣表彰科学技術賞等の表彰に関して依頼あり
- 5) 日本農学会関連
- 6) 「土壌微生物通信」Vol.1～Vol.67(1962年～1986年)と「土と微生物」Vol.1～Vol.59(1960年～2005年)のPDF化とCDの会員への配付に関して

2. 会費納入・予算関連

- 1) 会費の納入状況に関して

3. その他

- 1) 研連関連報告

- 2) 書評依頼

(審議事項)

1. H17年度会計報告
2. H18年度予算案
3. 会誌編集状況
4. 仙台大会準備状況
5. 「土壌微生物通信」Vol.1～Vol.67(1962年～1986年)と「土と微生物」Vol.1～Vol.59(1960年～2005年)のPDFファイルを納めたCDの会員外への販売に関して
6. 日本農学賞の推薦委員会の立ち上げに関して
7. 財政問題将来検討委員会の立ち上げに関して
8. 土壌微生物教育ワーキンググループの活動に関して
9. 評議員の構成に関する検討
10. その他

2) 編集・出版報告

① 会誌発行状況

Vol.59 No.2 2005年10月発行

シンポジウム 5編、公開シンポジウム 4編、報文 1編、ノート 1編、一般講演要旨 48編、こんなことがいま 5編

Vol.60 No.1 2006年4月発行

巻頭言 1編、報文 1編、ノート 1編、総説 2編、実験法 4編、現場の事例 1編、こんなことが今 1編、書評 1編、本会記事 1編

② 投稿状況

2005年6月～2006年5月

シンポジウム 9編掲載

報文 2編掲載 (現在 1編受理 Vol.60 No.2 に掲載予定、1編審査中、1編取り下げ)

ノート 2編掲載 (現在 投稿無し)

総説 2編掲載 (現在 投稿無し)

実験法 4編掲載 (現在 投稿無し)

現場の事例 1編掲載 (現在 投稿無し)

こんなことが今 6編掲載 (現在 投稿無し)

3) 会計報告

日本土壤微生物学会 2005年度 会計報告

1) 2005年度収入の部

項目	予算額	決算額	増減(決算-予算)
前年度繰越金	4,336,965	4,336,965	0
正会員費(未払い分を含む)	3,015,000	2,391,460	-613,540
国外会員費	50,000	5,000	-45,000
購読会員費	258,000	251,370	-6,630
賛助会員費	350,000	330,000	-20,000
M&E誌代金	201,600	188,300	-13,300
雑収入(大会運営費返金等)	300,000	392,001	92,001
収入合計	8,511,565	7,895,096	-616,469

2) 2005年度支出の部

項目	予算額	決算額	増減(決算-予算)
会誌刊行費	2,100,000	2,173,499	73,499
大会運営費	300,000	300,000	0
日本農学会分担金	80,000	77,200	-2,800
M&E誌及び管理手数料	400,000	317,791	-82,209
バックナンバーのPDF化	300,000	846,468	546,468
公開シンポジウム・出前授業経費	10,000	10,000	0
事務費			
事務管理費	350,000	160,950	-189,050
旅費交通費	250,000	100,940	-149,060
会議費	12,000	30,000	18,000
通信郵送費	250,000	243,364	-6,636
文房具費	30,000	27,945	-2,055
諸印刷費	150,000	215,705	65,705
雑費	35,000	1,775	-33,225
小計	4,267,000	4,505,637	238,637
予備費	4,244,565	3,389,459	-855,106
支出合計	8,511,565	7,895,096	-616,469

3) 財産目録 (2006年4月1日現在)

項目	金額
現金	85,892
郵便普通預金	1,252,902
郵便定期預金(含む累積利子分)	447,200
東京三菱銀行普通預金	1,552,212
常陽銀行普通預金	51,253
財産合計	3,389,459

4) 会計監査報告

2005年度 会計監査報告

本日、金銭、出納簿、預金通帳および各種領収書について詳細に監査した結果、各帳簿、領収書ともに極めて整然としており、支出収入に誤りのなかったことを報告致します。

日本土壤微生物学会会計監査

氏名 鈴木 創三 

平成 18 年 5 月 7 日

氏名 長岡 一成 

平成 18 年 5 月 10 日

5) 評議員会報告

2006年6月11日(日)12:00～13:30
於 東北大学マルチメディア教育研究棟(仙台市)

1. 報告事項

1) 会員動向

正会員数 595名、購読会員数 43機関、賛助会員数 26社33口
1年以上の滞納者が20数人いるとのことで、これらの会員も含めて、複数回の会費納入の督促を行う。

2) 幹事会

第1回幹事会2005年12月25日(東京農工大学)
第2回幹事会2006年5月21日(東京農工大学)

3) 2006年度 日本土壤微生物学会仙台大会に関して

① 本大会シンポジウム・一般講演

シンポジウム 5 題、口頭発表 15 題、ポスター発表 46 題

② 公開講座

「大地の微生物: 大いなる未知」
染谷孝(佐賀大)「土の微生物の働きを探る」

服部勉(東北大名誉教授、現アチック・ラボ)「ひと粒の土に微生物多様性を探る」
東北大学大学院生命科学研究所共催

③出前授業

実施校 仙台市立鶴が丘小学校 6年生(約50名) 実施日 6月9日午後(2コマ、90分)

講師:片山葉子東京農工大学教授

日本土壌微生物学会事務局 豊田、横山、江田、雨宮会長

授業タイトル: 土の微生物のふしぎなちから ~植物を助け、環境をきれいにする働き者~
(内容)

1. 微生物って何(どんなものが微生物かな、微生物が作る食べ物?牛乳も微生物が作る?)
2. 土の中の微生物(分解してゆく落ち葉、ミズの働き、土1グラムに微生物は何匹?)
3. 植物を助ける微生物(大豆の根粒菌)
4. 堆肥を作る微生物(生ゴミ堆肥、菜の花栽培で食用油、廃食用油から自動車燃料)

④サテライトミーティング

世話人(島野、境、南澤)

「植物根圏の微生物・微小動物の機能と相互作用」

6月9日(金)、東北大片平キャンパス生命科学本館 3F

(内容)

1:00-1:20「植物根圏微生物の機能と相互作用」○境雅夫(鹿児島大学)

1:20-1:50「根面に棲息する硝化細菌の性質解明を目指して」○佐藤一朗・高橋令二・徳山龍明(日大生資科)

2:00-2:15「根-根圏動物相互作用解明プロジェクトの紹介」○村上敏文(東北農業研究センター・福島研究拠点)

2:15-2:30「作物根系と土壤動物」○中元朋実(東京大院・農)

2:30-2:50「土壤動物・土壤原生動物概説」○島野智之(宮城教育大・EEC)

2:50-3:05「森林土壌のシリカサイクルにおける有殻アメーバの役割」○青木義幸(名古屋大院・環境・都市環境)

3:15-3:45「RISA法による植物根圏の微生物群集構造解析」○池田成志(東北大学・生命)

3:45-4:05「ダイズ根粒根圏におけるN₂O発生と微生物群集構造」○南澤 究(東北大学・生命)

4:05-4:20「ダイズ根粒菌マクロアレイによる芳香属化合物分解系の解析」○伊藤尚文(東北大学・生命)

4:30-5:00「水田土壌の原生生物群集の構造と機能」○村瀬 潤¹・Matthias Noll²・Peter Frenzel²(1:名古屋大学院・生命農学・2: Max-Planck-Institute for Terrestrial Microbiology)

5:00-5:15「PCR-DGGE法もちいた根圏土壌の繊毛虫相解析」

○三部光夫¹・島野智之¹・笠原康裕²(¹宮城教育大院, ²北海道大・低温研)

4)会誌出版・編集状況

① 会誌発行状況

Vol.59 No.2 2005年10月発行

シンポジウム 5編、公開シンポジウム 4編、報文 1編、ノート 1編、一般講演要旨 48編、こんなことがいま 5編

Vol.60 No.1 2006年4月発行

巻頭言 1編、報文 1編、ノート 1編、総説 2編、実験法 4編、現場の事例 1編、こんなことが今 1編、書評 1編、本会記事 1編

② 投稿状況

2005年6月~2006年5月

シンポジウム 9編掲載

報文 2編掲載(現在 1編受理 Vol.60 No.2 に掲載予定、1編審査中、1編取り下げ)

ノート 2編掲載(現在 投稿無し)

総説 2編掲載(現在 投稿無し)

実験法 4編掲載(現在 投稿無し)

現場の事例 1編掲載(現在 投稿無し)

こんなことが今 6編掲載(現在 投稿無し)

Vol.60 No.1 に会員各位への編集委員長からの投稿促進の依頼分が掲載されております。

5) 表彰関連

長谷部副会長が、評議員に候補者の推薦依頼を行う。
現在、文部科学大臣表彰科学技術賞等の表彰等3件

6) 日本農学会関連

評議員会 平成18年1月24(火)日開催
第77回日本農学大会の開催 平成18年4月5日(水)

7) 「土壌微生物通信」Vol.1～Vol.67(1962年～1986年)と「土と微生物」Vol.1～Vol.59(1960年～2005年)のPDF化とCDの会員への配付に関して

完成したCD-ROMの会員配付が終了した。2006年以降の雑誌のオンラインに関しては農林水産省農学情報検索システムの農林水産研究成果ライブラリーAGROLibに依頼する。PDF化してCD-ROM化したデジタルデータに関しては、少なくとも2年は非公開とする。

8) 学術会議関連

日本学術会議の国際学会対応の分科会の連携会員として犬伏評議員が登録されている。

2. 審議事項

1) 2005年度会計報告

① 国外会員からの会費振り込みは、5000円徴収するのに、手数料が7000円もかかるので、Cityバンクあるいは郵便為替での振り込みを検討する。

② 正会員数の減少に関しては、さらに解析を行うことになった。

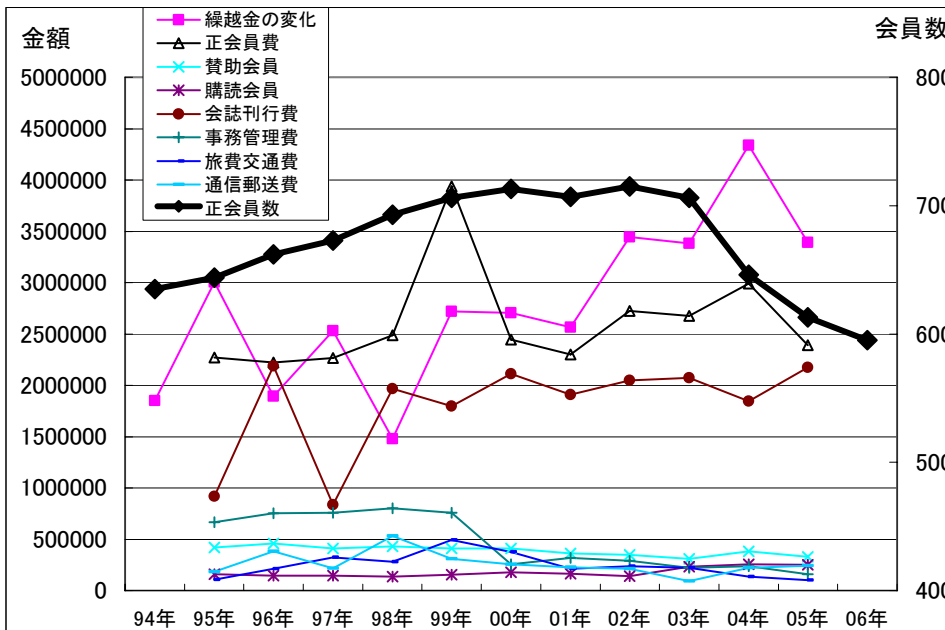
③ 賛助会員の拡大に関しては、微生物の資材等の団体(日本土壌協会やバーク堆肥協会等)に宣伝活動を行うこと。また、賛助会員への入会を依頼するパンフレットの作成を検討する。

④ 賛助会員の獲得のために、会誌の賛助会員欄に各社2行程度の宣伝を記載する。また、ホームページからの協賛各社へのリンクを張る。

⑤ 企業の学会参加者から、学会発表が現場の話題が少なくなって、魅力に欠けてきたとの指摘があるとの紹介があった。これに関しては、次回の大会のシンポジウム等で、具体的に対応できるのではという意見があり、企画幹事に対応が依頼する。

(資料:学会の財政状況)

	正会員数	繰越金の変化	正会員費	賛助会員	購読会員	会誌刊行費	事務管理費	旅費交通費	通信郵送費
94年	635	1,850,475							
95年	644	3,006,398	2,270,000	420,000	160,691	919,164	667,655	108,100	183,420
96年	662	1,895,284	2,224,000	460,000	143,809	2,188,442	752,668	211,190	382,302
97年	673	2,531,791	2,267,500	410,000	143,500	834,850	759,589	321,380	218,545
98年	693	1,478,916	2,489,000	430,000	133,000	1,965,060	802,343	277,780	529,385
99年	706	2,720,156	3,937,500	410,000	152,250	1,798,360	760,375	493,300	309,385
00年	713	2,706,504	2,443,000	410,000	178,500	2,109,810	254,310	377,760	258,124
01年	707	2,565,261	2,300,500	360,000	166,500	1,910,320	321,120	214,380	227,075
02年	715	3,444,172	2,725,500	350,000	141,020	2,050,550	289,910	237,375	211,508
03年	706	3,381,595	2,675,000	310,000	232,500	2,074,465	221,115	220,560	91,135
04年	646	4,336,965	2,992,400	380,000	258,000	1,846,549	234,774	137,640	223,982
05年	613	3,389,459	2,391,460	330,000	251,370	2,173,499	160,950	100,940	243,364
06年	595								



問題点

1. 会員数の漸減。
2. 繰越金額はほぼ横ばい:見かけ上は財政的には問題ない。会員数の減少がどこまで続くか?
3. 旅費交通費ならび事務管理費が安くなっているが、会長、編集委員長の所在によっては高騰する

2) 2005年度会計監査

鈴木会計監査員と、長岡会計監査員から会計監査をうけ、金銭等の記載が正確であることが確認された。

3) 2006年度予算案

①M&E諸代金に関する徴収は、M&Eがフルオープンアクセスになっているので購読数が減るのではという危惧がある。

②研連負担金は研連が活動を停止しているため、学術会議等の共催援助に項目を変更する。

③公開シンポジウム・出前授業経費に関しては、特に出前授業にかかった実費は学会で負担する、また、前泊等の宿泊費等の経費として2万円が計上されている。

④M&E誌印刷・管理手数料が40万円計上されている。この費用の一部は会員のM&E誌購入代金でまかなわれていたが、フルオープンアクセスで購読会員が減ってもこの額は維持するのか?

⑤事務局が大会運営時に出前事業から本大会まで参加する場合、旅費が研究費等で出せない場合も今後、出る場合もあることが予想されるので、事務局の経済的な負担を減らすために、学会から旅費を

出す場合を認めていただきたいとの提案があり、事務管理や旅費等をもう少し増額し、そのような場合に対処する。

4) 会誌編集状況

(会誌への投稿促進が必要)

会誌Vol.60, No.1の投稿規定の上部にわく付きで投稿論文の募集に関して記載されているように、Vol.61 No.1の発行に関して、論文等の数が、現在は足りない状況にある。

①岡野編集委員長に「総説」・「実験法」・「現場の事例」の掘り起こしの依頼を評議員等に行ってもらおう。

②土壌肥料学会では土壌生物に関する投稿数は減っていないので、「土と微生物」がどのようにすればその一部を取り込むことができるか考える必要があるという意見が出た。

③また、審査速度を編集員や評議員が協力して短くし、それをアピールする手もあるのではという意見が出た。

④審査結果でのアクセプトが早く出ることが重要である。印刷は少し遅れても構わないのでは。

⑤学会時に投稿を依頼する宣伝用紙を作って大会参加者に配ることが確認された。

⑥仙台大会は、岡野編集委員長が出席できないので、千葉大の坂本編集委員に代理で評議会に出席を願い、投稿促進等に関する協議に参加願うことになった。

5) 「土壌微生物通信」Vol.1～Vol.67(1962年～1986年)と「土と微生物」Vol.1～Vol.59(1960年～2005年)のPDFファイルを納めたCDの会員外への販売に関して

非会員企業 4万円、会員企業 2万円、一般の人 1万円、会員 5千円で過去の学会誌等をPDF化してCD-ROM化したデジタルデータを販売する。(現在までに、会員から4部追加購入があった。)

6) 日本農学賞の推薦委員会の立ち上げに関して

(日本農学賞推薦委員会構成員)

委員長: 斎藤雅典評議員(既に委嘱済み)

委員:(雨宮会長・長谷部副会長・犬伏評議員、松本評議員、百町評議員、横山総務幹事)

日本農学賞の学会からの推薦可能な時期・提出期限等

①毎年9月1日に加盟学協会代表者宛に候補業績の推薦依頼をe-mail送付

②提出締め切りは11月15日です。

③審査会は、翌年1月の日本農学会評議委員会

7) 財政問題将来検討委員会の立ち上げに関して

(財政問題将来検討委員会構成員)

委員長: 斎藤雅典評議員、副委員長: 長谷部副会長、委員: 豊田会計幹事、有江評議員、宍戸評議員(前会計幹事)、對馬評議員、松本評議員

財政問題将来検討委員会を立ち上げ、将来、事務局等が移動しても健全な学会運営が行われる基盤の検討を行う。また、検討細目には、会員や賛助会員の減少問題等も含まれる。

8) 土壌微生物教育ワーキンググループの活動に関して

(土壌微生物教育ワーキンググループ構成員)

委員長:宮下評議員、副委員長:長谷部副会長、豊田会計幹事、片山企画幹事、宍戸企画幹事

太田寛行氏、對馬誠也氏、坂本一憲編集委員

出前授業・公開シンポジウムは今後も継続することが決まっており、これらの事業に対する方向性、ノウハウ蓄積、講師人選等、の具体的な提言を行う。これに関しては予算措置がされており、旅費等は支給可能である。

9) 評議員の構成に関する検討

(問題提起)

木村前会長から、会長経験者が評議員に多選されることに関して、評議員会の活性化にそぐわない等の指摘がなされていた。また、今年度は評議員選挙、新会長選出の年である。

①会則の変更および会長経験者の身分に関して議論を行った。

②今の会則に沿った、解釈で問題解決は出来ないか意見を交換した

③その結果、犬伏評議員より、会則の3に「会長経験者は会長の要請に応じ、会務の運営に協力する。」という条文があり、これは、会長が要請すれば、評議員会に参加し、会務に協力する身分を持つことを意味している。このことから、会長経験者は既に評議員と類する身分を持っていることと見なし、評議員選挙の被選挙人に記載しないが良いのではという意見が出された。

④これに沿うと、会則の変更は必要ないが、評議員会での解釈の了承が必要である。

10) その他

①名簿発行に関して、2003年度(千葉大事務局)から3年目に入るので、対応を協議する必要がある。(幹事会のポイント)

個人情報保護法等の関連から、今年度の名簿発行は差し控えたほうがよい。周囲の学会の動きを見て考える。

②豊田会計幹事、村上企画幹事、有江企画幹事等の若手が、新しい土壌微生物実験法の執筆・編集を行うことを提案した。養賢堂に相談する。

3. 2006年度会務案

1) 行事案

①日本土壌微生物学会 53 回大会を開催する

開催:千葉大学 雨宮会長

開催場所:東葛テクノプラザ(つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス 予定)

②学会誌「土と微生物」を発行する

③評議員選挙・新会長選挙を行う

④日本農学賞候補者を推薦する

⑤賛助会員の拡大に関しては、微生物の資材等の団体(日本土壌協会やバーク堆肥協会等)に宣伝活動を行うこと。また、賛助会員への入会を依頼するパンフレットの作成を検討する

⑥財政問題将来検討委員会の立ち上げ

⑦土壌微生物教育ワーキンググループの活動

⑧その他:若手が、新しい土壌微生物実験法の執筆・編集を行う

2) 予算案

日本土壌微生物学会 2006年度 予算案

1) 2006年度収入の部

項 目	予 算 額	備 考
前年度繰越金	3,389,459	
正会員費(全会員が完納)	2,925,000	会員585名x5000
国外会員費	50,000	10名x5,000
購読会員費	258,000	43社x6000
賛助会員費	330,000	26社x33口x10,000
M&E誌代金	128,800	46名分 x @2,800
雑収入	300,000	大会運営費残金、利息等
収入合計	7,381,259	

2) 2006年度支出の部

項 目	予 算 額	備 考
会誌「土と微生物」刊行費	2,100,000	
大会運営費	300,000	
日本農学会負担金	80,000	会員数にて上下する
学術シンポ等補助	20,000	研連負担金の後継
M&E誌印刷・管理手数料	400,000	
公開シンポジウム・出前授業経費	20,000	前泊代10,000x2人
事務費		
事務管理費	350,000	
旅費交通費	250,000	事務局学会参加交通費補助も含む
会議費	20,000	
通信郵送費	250,000	年末までに評議員選挙実施
文房具費	30,000	
諸印刷費	210,000	公開シンポジウムのチラシ印刷のため増額
雑費	35,000	
小計	4,065,000	
予備費	3,316,259	
支出合計	7,381,259	

大会風景

出前授業準備



大会会場入り口



服部先生講演



大会会場風景



大会会場風景



サテライトミーティング風景

